

ポリファーマシーを地域で考える ～高齢者薬物療法適正化チームによる地域との連携～

溝神 文博 氏

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
薬剤部



国立長寿医療研究センター高齢者薬物療法適正化チーム
カンファランス

1.背景

ポリファーマシーは、薬剤数だけでなく薬物有害事象や服薬アドヒアランス低下などあらゆる薬の不適正使用を含む概念に発展している。単に減薬するだけでなく服薬アドヒアランスを改善するなどトータルサポートが求められるが、医師・薬剤師が単独では対応が難しいため、多職種(医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・セラピスト)連携による「高齢者薬物療法適正化チーム」を結成し病院内でのポリファーマシー対策を開始した。チームで対策を行うことで医師・薬剤師が単独で処方提案を行うよりも主治医と処方適正化に対するコミュニケーションが容易になった。さらに、チームが結成されたことで医療従事者の意識が向上することが明らかとなった。しかし、チームで処方の適正化を行った患者が、地域で処方のもとに戻ることも患者の薬に対する正しい理解、とりわけ薬物有害事象に関する理解が低く、様々な処方薬やサプリメント、一般用医薬品の重複に伴う薬物有害事象の発現も散見される。

2.目的

こうした背景をもとに本研究では、ポリファーマシーに対する地域での多職種連携の勉強会および市民への教育を目的とした市民公開講座を開催し地域全体でポリファーマシー問題解決に取り組む。

3.計画

本研究では、大きく分けて2つのアプローチを行う。

- (1)「みんなで考えようポリファーマシー—職種と地域の連携—」

多職種を対象としたポリファーマシー対策に必要な基本的な考え方および、処方適正化に対するアプロ

チを講義及びワークショップ形式で開催。また、会場にてアンケートを行い、地域でのポリファーマシー対策の問題点などを聞き取り今後の対策につなげる。

- (2)「高齢者で注意が必要な多すぎる薬と副作用を知ろう！」

市民公開講座の開催。薬の適正使用をテーマとして、ポリファーマシー、サプリメントや一般用医薬品なども含めた適正使用と服薬管理に関する講演会を予定。また、同時に会場にてアンケートを行い市民のポリファーマシーに対する関心度や考え方などを収集する。

上記内容を通じて薬剤総合評価調整管理料および服用薬剤調整支援料の算定支援などの具体的な取り組みおよび市民の意識向上を図り、ポリファーマシー対策に関するモデル地区形成に取り組む。

4.期待される成果

本計画を遂行することで、ポリファーマシーに対する理解の醸成につながり、地域医療従事者間のコミュニケーション強化が図れると考える。具体的には、保険薬局からの処方提案の増加やメディカルスタッフの薬物有害事象など薬物療法に対する意識向上につながることを考える。また、高齢者薬物療法適正化チームを中心としたポリファーマシー対策に関するモデル地区の形成を目指す。本研究の成果は、学会発表・学術論文・マスコミ等を介して国内外へ広く普及・啓発できる。